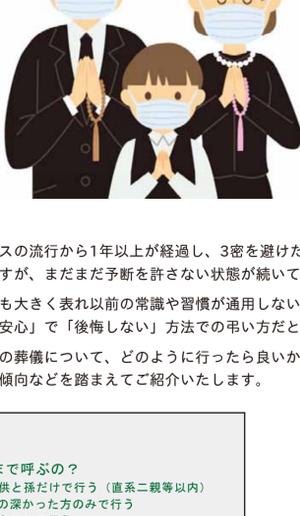


コロナ禍の葬儀ってどうしているの？



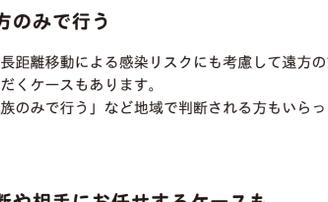
新型コロナウイルスの流行から1年以上が経過し、3密を避けた新しい生活様式が定着しつつありますが、まだまだ予断を許さない状態が続いています。

その影響は葬儀にも大きく表れ以前の常識や習慣が通用しない状況になっており、今大切なことは「安心」で「後悔しない」方法での弔い方だと思っています。

そこでコロナ禍での葬儀について、どのように行ったら良いかの注意すべきことなどについて、最近の傾向などを踏まえてご紹介いたします。

「目次」
親族はどこまで呼ぶの？
・配偶者と子供と孫で行う（直系二親等以内）
・故人と交流の深かった方のみで行う
・地域が近い方のみで行う
・総合的な判断や相手にお任せするケースも
・参列を遠慮してもらう時にはなんて伝えたいの？
葬儀の形態や日程は？
・「直葬（火葬式）」の増加と時々聞こえる後悔の声
・一日葬の急増
・通夜・告別式（二日葬）の回復
・ひと晩過ごせる一日葬とは？
一般の参列者を招く時の対応は？
・参列者を招く時の注意点
遠方のお寺(菩提寺)は呼ばなくてもいいの？
コロナ禍での葬儀の注意点は？
・感染対策の実施
・会食の対応
まずは葬儀社に相談してみましょう

親族はどこまで呼ぶの？



コロナ禍の葬儀では「親族をどこまで呼ぶのか？」皆さん結構迷われています。最終的にはそれぞれのご事情や喪家の考え方になりますが、最近の事例をご紹介します。

配偶者と子供と孫で行う（直系二親等以内）

故人の配偶者、子供、孫までの「家族だけ」で、血縁の濃さを基準にして判断しているケースがあります。

特に**緊急事態宣言時**などはこの「**家族だけ葬**」が多くなる傾向があります。

故人と交流の深かった方のみで行う

親族でも交流がほとんどなくなっている方や遠方の方以外で集まるケースです。

最近の傾向として近親者と親族でも**生前交流の深かった人**だけで行うケースが増えています。

地域が近い方のみで行う

コロナ禍では、長距離移動による感染リスクにも考慮して遠方の方にはご遠慮していただくケースもあります。

「県内在住の親族のみで行う」など地域で判断される方もいらっしゃいます。

総合的な判断や相手にお任せするケースも

親族をどこまで呼ぶのかを「血縁」「交流」「地域」での事例で紹介しましたが、現実的には判断基準は1つではなく総合的にみて皆さん判断されています。

またご連絡をして、**喪家の意向は伝えつつも参列するかを判断を相手にお任せする**というケースもありました。

参列を遠慮してもらう時にはなんて伝えたいの？

参列を遠慮してもらう方法としては

①葬儀前に訃報を伝え、参列辞退の意向を伝える

②葬儀前には訃報を伝えず、葬儀後に報告するの2パターンになります。

交流のある親戚であれば、①の亡くなった時点で訃報を伝えるべきだと思います。訃報を伝える際に「昨今の集いを自粛する状況に配慮し、近しい家族のみで葬儀を行うことにしました。」などと言えば大丈夫でしょう。そして相手が心配される「香典」や「供花」についても辞退される場合は「恐れ入りますが、お香典やご供花もご辞退申し上げます。」と明確に辞退の意思をお伝えしましょう。

また葬儀前に訃報が伝えられなかった親戚には葬儀後に報告するようにしましょう。報告は電話以外に「死亡通知」を出す方法もありますので、関係性や交流の状況により検討して下さい。

<死亡通知 参考文例>

父○○儀 かねてより療養中のごころ月○日○○歳にて永眠いたしましたここに故人が生前に賜りましたご厚誼に対し衷心より御礼申し上げます
葬儀に關しましては昨今の集いを自粛する在り方を鑑みて家族のみで○月○日に執り行わせていただきました
ご連絡が遅れましたこと深くお詫言申し上げます
まずは略儀ながら書中にてご挨拶申し上げます

葬儀の形態や日程は？



従来は故人を弔うために交流のある人達が集まり「お通夜」「告別式」をおし、お葬式を行っていましたが、コロナ禍では感染防止のため長い時間が集まることを避ける必要があることから、**葬儀の日程や時間についても考えなければいけなくなりました。**

葬儀の形態を日程・時間で区分すると大まかに「直葬（火葬式）」「一日葬」「通夜・告別式(二日葬)」の3に分けられます。

こちらでは最近のご葬儀の形態についてご紹介いたします。

「直葬（火葬式）」の増加と時々聞こえる後悔の声

直葬（火葬式）とは、通夜や告別式といった儀式的なことを行わず火葬だけを行う葬儀のことです。

時間的にも短縮され、費用的にも軽減できることから増加傾向ではありましたが、コロナ禍では更に拍車がかかり緊急事態宣言下では急増しました。

火葬前にお経を唱えてもらったり、お別れの間をすることもできますが、火葬場で**お別れ出来る時間は10～20分程度と限られています。**

時間と費用が抑えられる「直葬（火葬式）」ですが、**後になって「もっとしっかりとお別れしたかった」「ちゃんとしたお別れが出来ず、未だに気持ちの整理が出来ない」など後悔されているケース**もあります。

一日葬の急増

一日葬とは葬儀の儀礼は通夜・告別式と2日以上にわたって行われていたものが、通夜を行わず火葬する当日に葬儀・告別式もあつたり、近親者が集い時間共有することによりそれぞれの気持ちを整理するうえで大切な時間でもありました。

コロナ禍では参列者の人数を制限するとともに、近親者が一緒に集うことも感染リスクもありますので、通夜のセレモニーを無くしそれぞれが別々に故人を偲び、一日で**葬儀・告別式を行う一日葬**が急増しています。

一日葬をすすめる傾向は宗教者にも多く、1日で「通夜回向」「葬儀」「繰上げ初七日法要」を行うケースも増えています。

通夜・告別式(二日葬)の回復

緊急事態宣言が解除され新規の感染者数が落ち着いてくると、**従来の通夜・告別式を行う二日葬を行う方の数も回復**してきます。

これは新型コロナウイルスの感染対策の具体的な内容がわかってきたことにより、**万全の対策を講じての葬儀施行が行える**ようになったことも影響していると思っています。

また現在も多くの病院や施設で面会禁止が続いているので、「ずっと会うことが出来なくて…」と看取り体験が出来ず悔やまれているケースも多々あります。

そこで**重要になってくるのが、亡くなった後の面会対応や家族で泊まれる式場設備**です。今は多くの方が見送りが難しく、家族で最期のひと時をゆっくり過ごし、家族であたたかく見送ってあげたいというニーズが高くなっています。

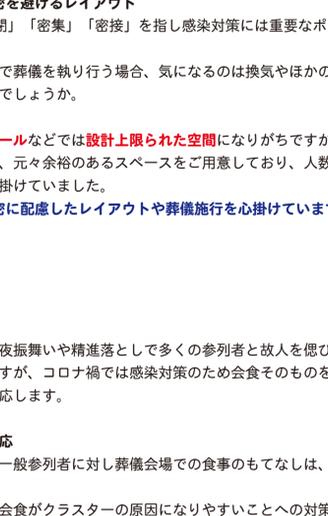
ひと晩過ごせる一日葬とは？

お通夜のセレモニーは行わず、最後のひと晩を故人とご家族で自由に過ごしていた**だけです。**

そして翌日は一日葬でしっかりとお弔いすることが出来る**シンプルでも最後のひと時をゆっくり過ごせる葬儀プラン**です。

こちらは当社のオリジナルサービスになりますので、同様の対応が出来るのは葬儀社によって変わってきますので注意して下さい。

一般の参列者を招く時の対応は？



故人や喪主の交流関係が広がった場合には、一般の参列者を招いてのご葬儀も取り行われます。

その場合には**感染対策を考慮したうえで対応方法を検討**します。

そして、葬儀の案内をする際は、参列を強要しないように告知し、参列するかの判断は相手にゆだねるようにしましょう。

参列者を招く場合の注意点

まずは感染対策としてマスクの着用や、手指の消毒、体温計測の呼びかけをして、徹底をしましょう。

当社でおすすめしている対応事例

- ・家族葬＋自由焼香(一般の焼香)
通夜前もしくは焼香の時間を設定し、一般の参列者を分散します。
- ・焼香のみでお帰りのいただく
会葬者席や会食の準備をなくし、受付・焼香のみでお帰りのいただく。
- ・その場で料理を食べるのではなく、お弁当やグルメギフトを用意しお持ち帰りのいただく。

当社では感染対策を講じたうえで、皆様のご要望に対し知恵を絞り対応策を検討してまいりますので、お気軽にご相談下さい。

遠方のお寺(菩提寺)は呼ばなくてもいいの？

お墓があるお寺、お付き合いの良いお寺（菩提寺）が遠方にある場合などには、お坊さんに連絡していただくか不安になることもありますが、**菩提寺がある場合はまずは報告し、指示を仰ぐ**のがマナーとなっていますので、亡くなったことを報告しましょう。

そのうえで

①戒名は菩提寺につけてもらう、読経するお寺は葬儀社に同宗派の寺を手配してもらう。

②菩提寺から近くのお寺の手配してもらう。

③菩提寺に来てもらう。

どのような対応になるのか

又②③の場合は日程の都合や葬儀の形態(一日葬・二日葬)を確認、相談して下さい。

連絡する際は「コロナの状況なので、わざわざお越しいただくのは心配しています。葬儀社に確認したところ同宗派のお寺を手配することも出来ますが、まずは菩提寺に連絡して指示を仰ぐように言われました。」などと希望を伝えてみてはいかがでしょうか。

お坊さんもコロナ禍なので事情は分かってくれと思います。**遠慮せずに希望を伝えて相談**されてみては失礼に当たりません。

コロナ禍での葬儀の注意点は？

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、葬儀のかたちも変化しています。このような状況でも、故人を思う気持ちは変わりません。

しかし、葬儀で感染者が出てしまったら、後々後悔してしまい、故人の供養にも影響が出てしまいます。

コロナ禍の葬儀では「安全」「安心」を第一に参列者の制限や十分な感染対策を行うつつ、納得できる葬儀を行いましょ。

感染対策の実施

・**手指消毒の実施**
手洗い、うがいに加えて、式場に入る時やトイレから出た後は手指消毒を必ず行います。

ウイルスは人の手を介して感染を広げていくこともあるため、手洗いだけでは落としきれなかったウイルスや細菌を除去することが必要です。

当社ではアルコール消毒以外に肌に優しくウイルス対策に効果的な消毒液を常備しております。

・**マスクの着用**
コロナ禍の現在、自宅以外ではマスク着用が当たり前のマナーとなりました。以前は葬儀でのマスク着用は失礼だと言う人もいましたが、今はマスクを着用しないほうがマナー違反です。

葬儀規模の大小にかかわらず必ずマスクを着用しましょう。

・**葬儀会場は3密を避けるレイアウト**
3密とは「密閉」「密集」「密接」を指し感染対策には重要なポイントとなっています。

葬儀会館などで葬儀を執り行う場合、気になるのは換気やほかの列席者との距離などではないでしょうか。

家族葬専用ホールなどでは**設計上限られた空間**になりがちですが**当社の場合は**、元々余裕のあるスペースをご用意しており、人数や規模に応じたレイアウトを心掛けていました。

現在では、**3密に配慮したレイアウトや葬儀施行を心掛けています。**

会食の対応

本来であれば通夜振舞いや精進落として多くの参列者と故人を偲び、お話をしながら食事を取りますが、コロナ禍では感染対策のため会食そのものを控えたり、会食方法を変えて対応します。

・**参列者への対応**
コロナ禍では一般参列者に対し葬儀会場での食事の提供もなくなり、ほとんどなくなりました。

これは大勢の会食がクラスターの原因になりやすいことへの対策で、対応としてはお弁当やグルメギフトをお持ち帰りのいただくケースが増えています。

・**通夜振舞いのお料理(家族・親戚)**
以前の通夜振舞いのお料理は大皿の寿司やオードブルが主体でしたが、現在は小分けにして提供しています。

また通夜式後の料理もその場で食べることも持ち帰ることもできその判断を当事者自身が出ることからお弁当で用意する事例が増えています。

・**精進落としのお料理**
本来、精進落としは、葬儀を終えた後、お手伝いいただいた方や、親しい方や親戚などの労をねぎらう会食の場でもありました。

現在は会食を控える傾向から、火葬場でお弁当を用意し、その場で召し上がっていただく、お持ち帰りのいただく等、柔軟に対応できる様おススメしています。

まずは葬儀社に相談してみましょう

コロナが流行し出してから、約1年以上経過しているなかで、**私たち葬儀社も様々なケースのご葬儀を経験**しています。

実際に葬儀を検討するうえで、様々な「不明」「不安」が出てくるのも当然のことだと思います。

しかし、**葬儀社に希望や状況を伝え、他の方の事例や具体的な対応などを聞いてアドバイスを**もらうことをおすすめいたします。

当社でも、日々ご相談や施設見学にも応じていますので、些細な事でもお気軽にご相談下さい。

株式会社 神奈川葬祭 2021.06.10【特集記事】コロナ禍の葬儀ってどうしているの？

匿名でのご相談にも対応いたします。
不安なことはお気軽にご相談下さい。

話して 悔いなし
ご相談・ご用命は **0120-87-9174**

株式会社 神奈川葬祭